

平成22年度 活動報告書

苫小牧工業高等専門学校

校長・スタッフ会議

校長 秋山 俊彦

I 平成 22 年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(3) 教員の資質向上のための措置

- ①公募による教員採用を行ない、多様な人材の確保に努めた。
- ②各種人事交流制度に関する情報は適切に開示したが、「人事交流の成果を校内諸活動の活性化に生かす方策」については検討できなかった。
- ③「女性教員増加のために必要な方策」として、教員採用において公募要領に男女共同参画を明記した。
- ④「教員の教育業績評価法改善に関する検討」は行なわなかった。
- ⑤教員の優れた教育業績に対する顕彰を行なった。
- ⑥教員の学位取得状況に応じて校務分担等を適正化した。

(5) 学習支援及び学生支援のための措置

- ①「学生相談室および学生相談体制充実のための管理運営体制の見直し」は進まなかった。

II 教職員の研究活動を活性化させるための措置

- ①「研究支援体制を整備するための管理運営体制の見直し」は進まなかった。

IV 業務運営の改善及び効率化を図るための措置

- ①「職員の業績顕彰策に関する情報」については高専機構からの情報提供があった。
- ②「教育研究等に係る経費」について、運営委員会の審議に基づいて適正な配分を図った。
- ③「管理的経費の抑制策」について方針の立案等は行なわなかったが、道内高専と連携しての共同調達などによって抑制を図った。

2 定常的業務に係る活動報告

- ①「適切な人員配置計画」を継続して実施した。
- ②「適切な学内予算配分」を継続して実施した。
- ③「管理運営上の諸課題」に関して適切に対応した。

3 その他特記事項に係る活動報告

- ①②「校務分担の適正化」「管理運営体制の改善」に関する検討は進まなかった。

II 次年度への申し送り事項

- ・中期目標、中期計画について、平成 23 年度末の中間点検を念頭に、目標の達成、計画の進捗を急ぐ。
- ・教職員の負担軽減を前提とした運営組織改善に関する検討を急ぐ。

運営委員会

委員長 秋山 俊彦

I 平成 22 年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(1) 入学者の確保に関する措置

- ①「女子志願者増加のための方策」について、入学試験委員会での実施結果に関する報告があった。
- ②「道内四高専間の連携に関する検討」について、主として入学試験(学力検査)に係る連携について検討した。

(2) 教育課程の編成に関する措置

- ①②「教育課程に関する審議日程」については検討できなかった。
- ③「教育プログラムに関する審議」を実施したが、定期的な審議体制に関する検討はできなかった。
- ④⑤「混合学級に関する事例収集」「学科構成変更に関する事例収集」は行なわなかった。
- ⑥「一般科目及び専門基礎科目の今後のあり方に関する方針」に関する検討はできなかった。
- ⑦「高度化再編に関する情報」について、校長会議等からの情報が報告された。

(3) 教員の資質向上のための措置

- ①「教育改善策」は FD 部会において立案し、実施した。
- ②「FD の、学校経営戦略への位置づけ」について具体策は検討できなかった。
- ③「他の教育機関等における教育改善事業に関する情報」について FD 部会からの情報が報告された。

(4) 教育の質の向上及び改善のための措置

- ①「運営委員会における審議体制の構築」について具体的な検討は進まなかった。
- ②「日本技術者教育認定機構の継続審査」を受審した。
- ③「学生交流に関する情報」について、校長会議等からの情報が報告された。
- ④「教育に関する自己点検評価」は現行の体制に沿って実施された。
- ⑤「co-op に関する情報」について、環境教育推進 WG からの情報が報告された。
- ⑥「地域在住の退職技術者等を雇用する方策」について、審議を行なえなかった。
- ⑦「教育連携の方策に関する情報」について、FD 部会からの情報が報告された。
- ⑧「e-Learning システムの利用実態調査」について、WebClass 運用責任者より、利用実態に係る提議が行なわれた。

(5) 学習支援及び学生支援のための措置

- ①「学習支援に関する社会の要望等についての調査」は特に行なわなかった。
- ②「学生相談・学生支援の体制」を維持し、今年度より言語療法士による支援を導入した。
- ③「学生支援推進事業」について各委員会等からの報告が行われた。

④「メンタルヘルスおよび学生相談に関する研修会」を実施した。

(6) 教育環境の整備活用のための措置

①②「過程で施設マネジメントに関する知見の蓄積」「施設の有効活用に関する検討」について、施設防災部会で校舎改修(第1期)中に得られた知見の集積を行なった。

II 教職員の研究活動を活性化させるための措置

①戦略的展開事業(継続)、原子力人材育成推進事業による助成を獲得した。

III 地域社会との連携ならびに国際交流を推進するための措置

①「教員の業績情報収集」は継続して実施したが、「業績情報の活用方法」については検討に至らなかった。

②「外国人留学生受入れに関する情報」について各種情報が報告された。

IV 業務運営の改善及び効率化を図るための措置

①「管理運営体制見直しに関する検討」は進まなかった。

②「コンプライアンスに関する研修」に関する検討は進まなかった。

③「防災体制の見直し」について、施設防災部会において検討した。

④「教員の業務マネジメントに関する研修」に関する検討は進まなかった。

⑤「管理運営全般に関する自己点検評価」は現行の体制に沿って実施した。

2 定常的業務に係る活動報告

(1) 組織・運営及び施設に関する事項

①「管理運営体制の改善に関する検討」は進まなかった。

②「施設に関する有効活用等についての検討」「校舎改修計画(第2期以降)の策定」は施設防災部会において実施した。

(2) 教育効果の向上に関する事項

①「教育課程運用のために必要な審議」について、教育プログラムの運用に関する審議を行なった。

②「FDに関する施策」をFD部会において立案し、運営委員会として実行した。

(3) 消防及び防災に関する事項

①「防災に係る計画」については、年度内に施設防災部会において審議の運びである。

(4) 情報公開に関する事項

①「情報公開請求」はなかった。

②「情報公開に関する事項についての審議」は特に行なわなかった。

(5) 留学生の受入れに関する事項

①「留学生の受入れ」について審議した。

(6) 中期目標・中期計画に関する事項

①「中期目標の達成、中期計画の進捗」を前提として年度活動計画を策定した。

②③「中期目標の達成状況・中期計画の進捗状況に関する自己点検評価」について、今年度は年度活動報告を作成する。

(7) 点検・改善に関する事項

①「点検改善システムの運用」は実施された。

(8) その他校長が必要と認めた事項

①適宜、審議を行なった。

3 その他特記事項に係る活動報告

①「教職員の負担軽減策」に関する検討は進まなかった。

②「防災訓練の適正な実施、防災教育の実施」について、年度内に施設防災部会において審議の運びである。

II 次年度への申し送り事項

- ・中期目標、中期計画について、平成 23 年度末の中間点検を念頭に、目標の達成、計画の進捗を急ぐ。
- ・教職員の負担軽減を前提とした運営組織改善に関する検討を急ぐ。
- ・業務マネジメント、コンプライアンス等、未実施の項目に関する検討を急ぐ。

教務委員会

委員長 橋本 久穂

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動計画

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(2)教育課程の編成に関する措置

- ①学生による授業アンケートの分析結果をどの様に教育課程の改善に活用できるか検討を開始することが出来なかった。従前からの授業アンケートに基づく授業改善は実施した。
- ②平成21年度に単位化した、環境教育の一環として実施される産業体験プログラムを継続して実施した。

(4)教育の質の向上及び改善のための措置

- ①平成19年度より施行された教育課程を適正に運用した。改善が必要かどうかの検討は機構が検討しているコアカリキュラムの動向を見ながら検討することとした。
- ②平成21年度に単位化を決定した新教育課程における特別学修の単位認定を適正に実施した。
- ③第4学年の学外実習を継続して実施した。
- ④地域企業との共同教育(co-op)として、学生参画型共同研究としてインターンシップを実施し、単位認定を行った。

(5)学習支援及び学生支援のための措置

- ①平成20年度末に実施した補習に関する調査をもとに、教務委員会にワーキンググループを設置して具体的な実施案を検討こととなっていたが、JABEE受審準備等のために検討する時間を持つことが出来なかった。

2 定常的業務に係る活動報告

(1)教育課程に関する事項

- ①平成22年度実行教育課程を適正に実施した。
- ②平成23年度実行教育課程を確認した。
- ③「環境・生産システム工学」教育プログラム前期課程履修者の確認を行った。
- ④第4,5学年学修単位のA,B方式の変更について検討した。
- ⑤第4学年に対するJABEEプログラム説明会を行った。
- ⑥平成23年度外国人留学生特別カリキュラムを決定した。
- ⑦平成18年度以前入学生に係るカリキュラムの移行措置の確認を行った。

(2)授業及び試験に関する事項

- ①平成23年度年間行事予定を作成し、決定した。
- ②授業時間割を編成し、決定した。
- ③中間試験, 定期試験, 再試験, 追試験, 追認試験を実施した。
- ④科目担当者の調査と確認を行った。
- ⑤平成23年度シラバスを作成・点検し、学内外に公開する予定で準備中である。
- ⑥授業変更を確認・実施した。

- ⑦教科指導について確認した。
 - ⑧教室の配置を決定する予定である。
 - ⑨欠席・欠課状況を調査した。
 - ⑩学生の特別欠席を確認した。
 - ⑪試験(前期中間・定期, 後期中間・定期)の欠席状況を調査した。
 - ⑫インフルエンザ, 麻しん等に伴う学級閉鎖・休講は, 今年度無かった。
 - ⑬平成 22 年度国立高等専門学校学習到達度試験を実施した。
 - ⑭学外実習を実施した。
 - ⑮英語学力テストを実施した。
 - ⑯教育補助業務等有資格者(低学年教育チューター)を配置した。
 - ⑰試験答案やレポートの返却日を設定し, 実施した。
 - ⑱授業アンケートを前・後期に実施した。
 - ⑲授業における学生の達成度評価を実施した。
 - ⑳学科反省会の報告を取りまとめ, 教務委員会に報告した。
- (3) 特別活動及び学校行事等に関する事項
- ①平成 21 年度ホームルーム実施記録を確認した。
 - ②平成 22 年度ホームルーム指導案の策定を担任に依頼し, 教務委員会で確認した。
 - ③第2学年総合研修旅行を立案し, 実施した。
 - ④第3学年オリエンテーションを立案し, 実施した。
 - ⑤第4学年工場見学旅行を立案し, 実施した。
- (4) 進級及び卒業の認定等に関する事項
- ①卒業認定を教務委員会で確認した。
 - ②第1～4学年進級認定を教務委員会で確認した。
- (5) 既修得単位の認定に関する事項
- ①平成 22 年度各科目の成績評価を教務委員会で確認した。
 - ②各科目の履修の認定ならびに単位の認定を教務委員会で確認した。
 - ③追認試験による未修得単位の認定を行った。
 - ④「知識・技能審査における成果に係る学修」の単位認定を行った。
 - ⑤教務システムによる学生の成績を管理した。
 - ⑥教務システムによる学生の出・欠席について管理した。
- (6) 退学(懲戒処分による退学を除く。), 休学, 復学及び除籍に関する事項
- ①学生異動について審議・決定した。(通年)
 - ②退学等の状況について調査した。
 - ③学籍を厳格に管理した(学生の現員数等)。(通年)
- (7) 研究生及び科目等履修生に関する事項
- (8) その他教務に関する事項
- ①教務委員会に係る中期目標・中期計画の平成 22 年度計画を立案し実施した。
 - ②教務事務システムを円滑に運用した。
 - ③入学式・始業式・終業式の時間配当を確認した。

- ④平成 22 年度保護者懇談会を立案し, 実施した。
- ⑤平成 21 年度国立高等専門学校学習到達度試験の結果については第 25 回教務委員会で報告した 2 月 28 日現在分析中である。
- ⑥平成 21 年度学習・教育目標到達度自己評価集計結果を取りまとめた。
- ⑦第 3・5 学年における皆勤・精勤賞の候補者を決定した。
- ⑧答案等の整理・保管について各科目担当者に依頼した。
- ⑨答案等保存資料の点検を実施した。改善を要する事案が無かった。
- ⑩学生からの要望は, 今年度は特に無かった。
- ⑪運営諮問会議からの提言にある「学生の学力低下への対応」, 「混合学級の導入の検討」について具体的に検討することが出来なかった。
- ⑫教員間連絡ネットワークを開催した。
- ⑬運営委員会 FD 部会と協力して授業公開を実施した。

3 その他特記事項に係る活動報告

- ①日本技術者認定機構 (JABEE) 実地審査の準備を進め, 受審した。

学生委員会

委員長 山口 和美

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(5) 学習支援及び学生支援のための措置

- ①授業料減免及び日本学生支援機構の奨学金貸与に関して、継続して適正に運用した。
 - ・経済的理由により入学料、授業料の納付が困難な学生に対しては、適正な選考の上、免除等の決定および申請を行った。
 - ・経済的理由により奨学金貸与が必要な学生に対しては、適正な選考の上、日本学生支援機構の奨学生に推薦した。
- ②入学時より卒業に至るまでの系統的キャリアデザイン教育の方策については、進路指導委員会によって調査が行われた。
- ③HRの時間などを利用したキャリアデザインプログラムの実施については、各学年で実施されるオリエンテーションや見学旅行などの行事の目的に職業観の育成などを盛り込んだ。

2 定常的業務に係る活動報告

定常業務はほぼ予定通りに実行され、学生の健全な育成が実行できた。

(1) 学生の団体、学生会活動及び学生生活に関する事項

- ①自主性やリーダーシップを育成することを念頭に置きながら学生会の指導を行った。
- ②各種学生会行事(学生総会(5月、2月)、体育大会(5月、1月)、等)について、自主性、協調性、企画力、責任感を育成することを念頭に置きながら、関係する学生会の各種委員会の指導を行った。体育大会については、怪我人なども比較的少なく、学生の運営もスムーズであった。また、昨年度はインフルエンザ流行のため中止した高専祭も、今年度は実施することができた。
- ③ホームルーム等を通じて、豊かな人間性の涵養や社会意識を育てることを念頭に置きながら、苫小牧市内の関係組織とも連携しつつ、学校の内外における学生生活に関する指導を行った。
- ④苫小牧市内の関係組織とも連携しながら、学生が交通事故や恐喝等の被害に遭わないように適宜巡回、指導を行った。
- ⑤交通安全・薬物等に関する講演会については、今年度は終業式後に交通安全についての講演会を実施した。
- ⑥学生の学生生活を充実させるために、1年生に対して性に関する講演会を実施した。また、教職員を対象にした学生相談およびメンタルヘルス等に関する講演会を実施した。学生を対象にしたホームルームにおけるキャリア教育については、検討段階にとどまった。
- ⑦第1学年オリエンテーション(5月)を実施して、高専生活についての理解、教員、先輩学生、同級生との親睦を深めさせた。
- ⑧リーダー研修会(1月)を実施して、学生会やクラブ等のリーダーの指導力を養い、その活動

や運営が健全で活気に溢れたものとなるように助言、指導を行った。

- ⑨ボランティア活動や環境問題に関して学生会が行う取り組みを支援し、それらの問題に対する学生の意識の向上を図った。

(2)学生の福利厚生に関する事項

- ①担任および学生相談室を中心にして、勉学、友人関係、健康面等で不安を抱えた学生の早期発見に努め、安心して学生生活を送れるように助言、指導を行った。
- ②保健室と協力して伝染病等の発生を防ぐための啓発活動(インフルエンザワクチンの学校での接種、保健室便りの発行など)を行った。
- ③学生相談体制の充実を行った。

(3)学生の表彰及び懲戒に関する事項

- ①課外活動や学生会、寮生会活動等で顕著な業績を残した学生を表彰した。
- ②学生の本分に反した行為等を行った学生に対しては、懲戒処分を行って反省を促し、健全な学生生活を送るように指導した。

(4)課外活動に関する事項

- ①複数顧問体制のもとに、自主性、協調性、責任感を育成することを念頭に置きながら、学生の課外活動の指導、支援を行った。
- ②学生の課外活動のための経済的な支援(遠征費の補助等)を行った。
- ③北海道地区高専体育大会(7月)のための遠征の指導、支援および当番校業務の遂行、支援を行った。
- ④全国高専体育大会(8月)、ロボットコンテスト、プログラムコンテスト等のための遠征の指導、支援を行った。

(5)福利施設の運営に関する事項

- ①福利施設の運営状況について定期的に点検し、利便性の向上を図った。

(6)外国人留学生の指導に関する事項

- ①寮と協力しながら留学生の生活、修学環境の改善を図った。特にチューター等の支援体制を活用して、学習、生活、健康面での不安等を早期に発見し、安心して修学できるような環境の整備に努めた。
- ②留学生の要望を取り入れるために、「留学生懇談会」を実施した。

(7)その他学生の厚生補導に関する重要な事項

- ①「学生会代表と校長との懇談会」を行って、学生の意見、要望を校長に伝えた。

3 その他特記事項に係る活動報告

- ①自動車免許取得に関する内規を改正し、手続きの簡素化を図った。

II 次年度への申し送り事項

- ・キャリアデザイン教育については進路指導委員会と連携しながら、さらに検討・実施する必要がある。

寮務委員会

委員長 古 崎 毅

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(5) 学習支援及び学生支援のための措置

- ① 定常業務はほぼ予定通りに実行され、寮生の健全な育成が実行できた。
- ② 「学生寮の施設設備改善」は概ね予定通りに実行できた。

2 定常的業務に係る活動報告

(1) 生活指導に関する事項

- ① 平日は毎日朝巡回を実施し、体調不良者の把握、居室の施錠や共用室の施錠・清掃状況の確認等を行った。
- ② 朝巡回の結果に基づき、昼休みにおける指導等で規律ある生活習慣を身に付けさせるように努めた。
- ③ 指導寮生に対して点呼方法の指導を行うとともに、宿直教員の点呼立会いにおいて実施状況を確認した。点呼の実施状況に不備がある時は指導寮生への指導を行った。
- ④ 毎月階長副階長会議を開催し、低学年寮生に対する指導方針等を検討・指導した。
- ⑤ 5月と10月に低学年寮生との個人面談を実施し、個々の寮生の抱える悩みや問題等の情報収集を行い、その情報を寮務教員で共有し協力して対処を行った。
- ⑥ 1棟(1学年用)の指導寮生と3学年チューターと随時情報交換し、新入寮生への指導を行った。
- ⑦ 7月と3月に女子寮事務補佐員(寮母)と寮務教職員との情報交換会を実施し、指導に活用した。
- ⑧ 随時、担任や学生相談室との情報交換し、指導に活用した。
- ⑨ 開寮時(4月, 8月, 1月)あるいは不定期に学年別オリエンテーションを実施し、共同生活の心構えを指導した。
- ⑩ 朝巡回を除き、寮務教員による定期的寮内巡回は実施しなかった。盗難が発生した時には学年別オリエンテーション・掲示物・放送による注意喚起を行った。
- ⑪ 閉寮時(7月, 12月, 3月)等に居室点検を実施して、居室・共用室の利用状況を確認し、不備のある寮生には指導を行った。

(2) 寮生会活動に関する事項

- ① 毎月1回程度、寮生会執行部との打ち合わせや寮務寮生会懇談会等を実施し、寮生会活動を支援するとともに、寮生の要望を収集して対応した。
- ② 避難訓練(5月と12月)およびシューター訓練(6月)を行った。
- ③ 寮生総会(4月と12月)や寮生会役員選挙(11月)など、寮生会主催の行事に対しその実行を支援した。
- ④ ポイント制による継続入寮選考を行った。

(3)文化厚生活動に関する事項

- ①寮生会行事(新入寮生歓迎会・寮祭・予餞会・親睦スポーツ大会)を支援した。
- ②寮生会誌(蒼冥・楓和)の発行を援助した。
- ③寮生会の委員会活動(各種当番、古紙回収など)を支援した。
- ④「寮務だより」を発行(6月と2月)した。

3 その他特記事項に係る活動報告

- ①保健の授業内容に「AEDの取り扱い方」が組み込まれたことを考慮し、寮生会執行部および各種委員長を対象としたAED講習会はリーダー研修会では実施なかった。
- ②ポイント制による継続入寮選考について、昨年度決定した「原級留め置き(留年)の寮生は原則として継続入寮を認めない」、「寮費滞納者については継続入寮を認めない」ことを選考時に考慮した。また、寮生会役員および始末書のポイントは昨年と同様とすることを確認した。
- ③新入生に対する「挨拶や自己紹介の練習」の指導方法について、寮生会執行部と行き過ぎた指導とならないように実施方法を検討した。また、リーダー研修会で「下級生の指導方法」について議論し、リーダーとしての指導寮生の育成を図った。

入学試験委員会

委員長 秋山 俊彦

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(1) 入学者の確保に関する措置

- ① 本校のアドミッション・ポリシーに関する検討は継続的に行われた。
- ② 本校のアドミッション・ポリシーのもと各専門学科が望む入学者像についても検討を依頼し、結果を募集要項に反映させた。
- ③ 千歳、恵庭方面に対し今年度、新たにバス広告を行った。また、近郊の JR 駅掲示板にポスターの掲示を行った。
- ④ 「高専見学会」の実施形態を変更し、自由見学の時間を増やした。また保護者を対象とした説明会を実施した。
- ⑤ 女子志願者増加へ向け、機構が作成した女子中学生向けパンフレットを活用した。また、8月に女子中学生向けの講演会を実施した。

2 定常的業務に係る活動報告

(1) 本科及び専攻科学生の募集に関する事項

- ① 平成 23 年度本科入学試験(推薦・学力)の募集要項について記載変更がないかを検討し、結果を反映させた。
- ② 平成 23 年度編入学試験の募集要項について記載変更がないかを検討し、結果を反映させた。
- ③ 前期中学校訪問を実施した(高専見学会の案内)。
- ④ 工業高校訪問を実施した。
- ⑤ 高専見学会を実施した。
- ⑥ 後期中学校訪問を実施した(募集要項の説明と入試説明会の案内)。
- ⑦ 入試説明会を実施した。
- ⑧ 「中学生の皆さんへ」を送付(訪問中学校へは持参)した。
- ⑨ 「高専ガイド」を見学会で配布し、後期中学校訪問時に持参した。
- ⑩ 各学科の協力によりホームページの内容充実が図られた。
- ⑪ 入試懇談会を実施した。
- ⑫ 女子中学生対象の講演会を実施した。講演会の広報は苫小牧民報の折り込みチラシにより行った。
- ⑬ 近郊の駅掲示板にポスターの掲示をした。

(2) 本科及び専攻科入学者選抜試験の実施に関する事項

- ① 平成 23 年度本科入学試験(推薦・学力)の実施要項について検討し改善を行った。
- ② 平成 23 年度専攻科入学試験(推薦・学力)の実施要項について記載変更がないかを検討し、結果を反映させた。

- ③平成 23 年度編入学試験の実施要項について記載変更がないかを検討し、結果を反映させた。
 - ④平成 23 年度専攻科入学試験(推薦・学力・社会人特別)を実施した。
 - ⑤平成 23 年度専攻科入学試験(推薦・学力)によって、環境システム専攻の定員を確保することができなかつたため、2 次募集を実施した。
 - ⑥平成 23 年度編入学試験を実施し、普通高校からの受験生が物質工学科に合格した。
 - ⑦平成 23 年度本科入学試験(推薦)を実施し、二つの学科で定員 20 名に満たなかつた。
 - ⑧平成 23 年度本科入学試験(学力)を実施し、大きな問題はなかつた。
- (3) 本科及び専攻科入学者の選考に関する事項
- ①専攻科入学試験の出願資格(英語)、選考基準及び面接評価の方法について改善の必要性について検討した。
 - ②編入学試験(外国人留学生対象)に係る合格者選考基準について検討した。
 - ③平成 23 年度本科入学者選抜(学力)の選考基準について検討し、修正を行った。
- (4) その他本科及び専攻科入学者選抜に関する事項
- ①本科の学力試験の採点ミスが全国で発生したため、例年の採点業務に加え今年度は採点日の午後に再採点を実施した。
 - ②専攻科入学試験(学力)における試験問題の作成及び審査体制について、大きな問題はなかつた。
 - ③編入学試験における試験問題の作成及び審査体制について、大きな問題はなかつた。
 - ④校舎改修は行われず、高専見学会および各入学試験への影響はなかつた。

II 次年度への申し送り事項

- ①拠点説明会の内容、時期、回数などを検討し、より多くの参加者確保に努める必要がある。
- ②関係委員会と協力し PR 活動をより強化し、志願者確保に努める必要がある。
- ③道内 4 高専で予備問題の様式、作成方法、使用方法等について継続して検討する必要がある。

進路指導委員会

委員長 中島 広基

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(5) 学習支援及び学生支援のための措置

入学時より卒業に至るまでの系統的キャリアデザイン教育の方策について早急に検討し、実施する。

- ①「各学年で実施される行事や HR 指導で定期的に行われているキャリアデザイン教育に資する内容について調査する」について、各種委員会等開催の行事におけるキャリアデザイン教育に関する内容を調査するなど、おおむね予定通り実行された。
- ②「各学年で実施されるオリエンテーションや見学旅行について、その目的の中にキャリアデザイン教育に資する内容を明記するよう、関係委員会に働きかける。」については、各種委員会で主催される各種行事(進路関連)について、実施目的に「職業観・キャリアデザイン」などを盛り込むように依頼した結果、ほとんどの行事においてその目的に加えていただいた。

2 定常的業務に係る活動報告

(1) 学生の進路の計画及び調査に関する事項

① 第5学年の就職進学に係る各種情報交換を定期的実施する。

..... 実施した。

② 各学生の進路希望調査を学年ごとに調査し、進路指導の基礎資料とする。

..... 学年毎には実施できなかった。

③ 各学年における、より効果的な進路指導の検討をおこなう。

..... 概ね実施した。

(2) 学生の就職の開拓に関する事項

① 就職開拓費の有効活用を促進し、次年度の就職活動に役立てる。

..... 実施した。

② 学生の就職活動が、より円滑に行えるよう進路指導室の機能強化を促進する。

..... 実施できなかった。

(3) 学生の進学の指導に関する事項

① 国公立大学等の編入学説明会を可能な限り受け入れるとともに、全学生に対する周知を行う。

..... 実施した。

② 学生の進学活動が、より円滑に行えるよう進路指導室の機能強化を促進する。

..... 実施できなかった。

(4) その他学生の進路に関する必要事項

① 第5学年を対象に、卒業後に社会人として必要な知識等の涵養を目的とした講演会を開催

する。

…… 実施した。

3 その他特記事項に係る活動報告

なし

II 次年度への申し送り事項

- ①校舎改修工事に伴い、進路指導室が確保できない状況になっている。できるだけ早急に改善されるよう、働きかける必要がある。
- ②進路希望調査を学年毎に調査する仕組みを考える必要がある。
- ③国公立大学の編入学試験については、定員の絞り込みが徐々に見え始めているため、その動向に注意する必要がある。
- ④就職活動開始時期の早期化が進む中、本校における就職活動の開始時期についても、対応を検討する必要がある。

企画広報委員会

委員長 山 際 明 利

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(1) 入学者の確保に関する措置

①「入学者募集に関する各種印刷物の発行」「高専見学会、高専祭などの機会における入学試験委員会への協力」は、おおむね予定通り実行された。

(2) 教育課程の編成に関する措置

①「卒業生による授業評価の方法についての検討」については、今年度は検討を行なわなかった。

III 地域社会との連携ならびに国際交流を推進するための措置

①「教育業績・研究業績等の情報の公表に関する検討」については、今年度は行われなかった。

②「教職員の海外派遣」については、国際化教育推進部会での検討結果に従って教員を海外提携教育機関に派遣した。

2 定常的業務に係る活動報告

(1) 将来構想・計画に関する事項

①ウェブサイトのデザイン変更にともなって、オンラインアンケートの掲載を休止した。

②「その他必要な広聴」として、特に実施項目はなかった。

(2) 広報活動に関する事項

①学校要覧はシラバスとの整合に留意しつつ、予定通り発行した。

②高専通信はおおむね予定通り発行した。

③高専ガイドは予定どおり発行した。

④「中学生のみなさんへ」は予定通り発行した。

⑤専攻科案内は紙媒体での発行は不要と考え、今年度は発行しなかった。

⑥学生募集のポスターは予定通り作成した。

⑦「中学生のための高専見学会」に係る各種案内は予定通り発行した。

⑧入試に関する広報として、教務主事補(入試担当)と協力しつつ中学生向け広報資料を作成した。

(3) ホームページの管理に関する事項

①本校ウェブサイトの管理は適切に行なわれた。また部分的に英文コンテンツを掲載した。

(4) 外国の高等教育機関との学術交流及び学生交流に関する事項

①国際化教育推進部会での検討を経て、EIT への学生・教職員派遣を行なった。

(5) その他将来構想、広報及び国際交流に関する事項

①校長、運営委員会から特別な指示は無かった。

3 その他特記事項に係る活動報告

- ①札幌市内運行の北海道中央バスに電子的広告(「ぴりかる」)を掲示した。
- ②千歳、恵庭方面での広報について、委員会として具体的な検討は行わなかった。ただし南千歳駅等に学生募集ポスターを掲示し、路線バスに入試説明会のポスターを掲載した。
- ③動画共有サイトへの本校広報動画の掲載については検討できなかった。ただし学会発表等、本校学生の活動が YouTube に動画として紹介された。

Ⅱ 次年度への申し送り事項

- ・教員の教育業績・研究業績等の情報の公表に関する検討を早急に行なう必要がある。
- ・オンラインアンケートについて、23年度にはアンケート内容等について再検討の上、ウェブサイトにも再掲載する。
- ・動画共有サイトの利用について、学校としての考え方を決定しておく必要がある。

学術情報センター委員会

委員長 森 重雄

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(5) 学習支援及び学生支援のための措置

- ① 自学自習基盤としての学術情報センターの施設設備改善に継続して取り組む計画に従って、以下の通り実施した。
 - ・計画通り図書の実装を行った。また、ブックハンティングを実施して、学生が希望する図書の充実を図った。
 - ・サーバおよびクライアントアプリケーションのバージョンアップを行い、機能を強化した。
 - ・一部の施設のスイッチを更新し、内部回線の高速化を行った。

III 地域社会との連携ならびに国際交流を推進するための措置

- ① 公開講座を継続して実施し、必要に応じて改善を図る
 - ・平成22年7月27日に計画通り実施した。なお、特に改善を要することはなかった。

2 定常的業務に係る活動報告

(1) 図書館資料の収集、管理及び利用関係

- ① 図書館のレイアウト検討
 - ・2階書庫のレイアウトを一部変更した。
- ② 新規登録者数拡大
 - ・一般利用者が41名新規登録された。
- ③ 入館者数拡大
 - ・入館者数は前年度より3,134人増加した。
- ④ 学生によるブックハンティング実施
 - ・平成22年11月12日に、札幌紀伊国屋書店で実施した。
- ⑤ 図書検索システムの利用推進
 - ・利用推進を継続して実施した。
- ⑥ 外部機関との連携継続
 - ・外部機関との連携を継続した。
- ⑦ 全国図書館大会参加
 - ・平成22年9月16,17日に参加した。
- ⑧ 図書館だより発行
 - ・平成23年1月末に発行した。

(2) 紀要関係

- ① 平成23年3月末に計画通り発行する。

(3) 教育用電子計算機・ネットワークの構築及び運用関係

- ① 利用者への支援
 - ・支援を継続した。

- ②新規利用者への教育
 - ・計画通り実施した。
- ③利用情報の収集・解析
 - ・各種利用統計を収集し、利用状況の解析を行った。
- (4) 情報処理等に関する教育, 研究, 開発及び普及関係
 - ①教員への教育コンテンツの紹介
 - ・計画通り実施した。
 - ②情報処理教育研究集会参加
 - ・計画通り参加した。
 - ③IT を利用した教育方法の動向調査
 - ・計画通り実施した。
- (5) 情報セキュリティに関する啓発及び教育計画の実施等関係
 - ①端末側ウイルス対策ソフトの更新促進
 - ・ウイルス対策ソフトのバージョンアップを行い、利用促進のため、適宜メール、電子掲示板、委員会を通じて、利用者への連絡を行った。
 - ②ウイルス対策ソフト組み込み監査実施
 - ・ウイルス対策ソフト組み込み監査実施の手順を作成し、実施した。
 - ③機構のセキュリティーポリシーに基づき、学内セキュリティーポリシーを制定する。
 - ・機構セキュリティーポリシーに基づき学内セキュリティーポリシーを制定した。
- (6) その他センターの運営関係
 - ①情報処理技術者試験の受験取り纏め
 - ・計画通り実施した。
 - ②利用マニュアルを整備
 - ・利用マニュアルを更新した。
 - ③プログラミングコンテスト参加支援
 - ・参加学生への開発環境を提供した。
 - ④高専見学会の対応
 - ・計画通り実施した。
 - ⑤関連 Web ページを更新
 - ・関連 Web ページを更新した。

3 その他特記事項に係る活動報告

なし

地域共同研究センター委員会

委員長 上田 茂太

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

II 教職員の研究活動を活性化させるための措置

- ①各種展示会(環境総合展, 北海道ビジネスEXPO, ものづくりテクノフェア, 全国高専テクノフォーラム等)への出展及び北海道地区高専テクノ・イノベーションフォーラム, シーズ発表会を行い積極的に教職員のシーズを公開した。また, 共同研究等については減少となっているが, 受託研究・受託試験については, 昨年と同水準の実績を保つことができた。

III 地域社会との連携ならびに国際交流を推進するための措置

- ①産学官連携コーディネーターと協力し, 例年通り企業訪問等を実施し, 社会・企業からの要望を収集した。
- ②他機関との協定等による連携を活用し, 各種展示会への出展や実験教室, 企業見学ツアー等を実施した。
- ③地域センターの利用状況調査を行った。
また, 施設・設備等の財産活用に向けた検討を行い, 生涯学習用備品について学内周知を行った。
- ④今年度は27回(前年15回)の出前授業を実施した。昨年に引き続き, JST北海道の後援で「科学のとびら」を実施した。さらに他団体が主催する「ひらけ! ぼくらの宝島」や「サイエンスフェスティバル INひだか」等のイベントにも出展した。
また, 受講者アンケートを実施し, 委員会で来年度に向けた見直し・改善の検討を行った。
- ⑤今年度は技術教育支援センターにも公開講座を開講してもらい, 全11講座(前年8講座)を開講した。また, 受講者アンケートを実施し, 委員会で来年度に向けた見直し・改善の検討を行った。
なお, 一般市民向け講座については, 検討を行ったが開講することができなかった。

2 定常的業務に係る活動報告

(1)センターの管理運営に関する事項

- ①産学官連携コーディネーターと協力し, 例年通り企業訪問等を実施し, 社会・企業からの要望収集に努めた。
- ②地域センター研究助成にて, 地域共同研究テーマ3件, 学内共同研究テーマ4件, 奨励研究テーマ7件を採択し助成した。「CD」
- ③JSTのA-STEP(シーズ発掘からの変更)申請を推進した。(申請:2件, 採択:1件)「CD」
- ④企業に対して, 卒業研究や専攻科研究のテーマを募集した。「CD」
- ⑤テーマ付インターンシップを推進するため, 14件のテーマについて交通費の支給を行った。
- ⑥学生参画型共同研究等については, 4件の研究テーマについて実施した。「CD」
- ⑦各種展示会(環境広場さっぽろ, 北海道ビジネスEXPO, ものづくりテクノフェア, 全国高専

テクノフォーラム等)で研究成果を発表した。「CD」

⑧北海道地区高専テクノ・イノベーションフォーラムやシーズ発表会等、学外者を対象とした研究事例の発表を実施した。「CD」

⑨専攻科委員会と協力して2月に専攻科研究発表会を実施した。

⑩地域センターの利用状況調査を行った。

また、施設・設備等の財産活用に向けた検討を行い、生涯学習用備品について学内周知を行った。

(2)民間企業等との技術開発相談、技術協力及び学術情報の提供等に関する事項

①道内4高専センター長会議を1回、4高専業務連絡会を3回実施し、産学官戦略展開事業等を通じての道内4高専の連携・協力体制強化等について検討を行った。

②ノーステック財団からのサポートを受け、道内4高専が協力して共同研究を実施することとなった。本年度は釧路高専主体の研究テーマで推進し、センター長がオブザーバーとして協力した。

③産学官戦略展開事業を通じて「第3回北海道地区高専テクノ・イノベーションフォーラム」及び「第2回技術相談会」を道内4高専合同で開催(1/29)し、環境広場さっぽろ(7/30-8/1)、北海道ビジネスEXPO(11/11-12)、北洋銀行主催ものづくりテクノフェア(8/20)等の展示会において、道内4高専合同で研究成果の展示・発表をした。「CD」

④専攻科委員会と協力して専攻科研究発表会を実施した(2/10)。

⑤CDを中心に昨年立ち上げた「苫小牧ドリームテクノサロン」を今年度は2回開催し地域との交流を推進した。「CD」

⑥苫小牧信用金庫との連携し、「とましんものづくり教室」を実施した(1/8)。

⑦シーズ発表会にて、高専協力会企業へ研究事例の発表及び技術相談を行った(2/10)。「CD」

⑧北大と道内4高専の協定に基づき、地域貢献専門部会を開催し、活動方針等について意見交換を行った。「CD」

⑨北洋銀行、北海道銀等と連携し、「第3回北海道地区高専テクノ・イノベーションフォーラム」を開催した(1/29)。「CD」

⑩北洋銀行主催の展示会(ものづくりテクノフェア)に出展した(8/20)。

⑪北海道銀行との連携事業として、第3学年対象に「モノづくり企業見学ツアー」を実施した(8/5-7)。

⑫JST北海道の後援で、地元ショッピングセンターにて「科学のとびら」を実施した(11/23)。来場者は350人であった。

⑬日高青少年自然の家と連携し、「サイエンスフェスティバルINひだか」において理科教室を実施した(12/12)。来場者は488人であった。

⑭道内産学官ネットワーク推進協議会、北海道産業人材育成連携会議、北海道地域イノベーション協働体への参画等を通じて、他の高等教育機関等と連携を図った。室蘭工大とは連携協定を利用して、苫小牧のまちづくりに関する講演会(3/8)の講師を派遣した。「CD」

⑮市・経済団体等が主催する評議会等に参加し、他の高等教育機関との連携を図った。

⑯ものづくり分野の人材育成・確保事業の運営に協力し、8講座中4講座(ものづくり機械加

工、3D-CAD,電気工事基礎、技術者倫理)を本校主体で実施した。

⑰企業訪問・各種行事等で技術相談・共同研究等のPRを行った。「CD」

⑱シーズ集(HP版)の改訂を行うとともに、展示会等で広く配布した。※冊子版は2年ごとに発行

⑲技術マッチングシステム(KNTnet)を学内に周知するとともに道内高専フォーラム等において、企業へ周知を行った。

⑳共同研究 8 件(前年 13 件), 受託研究 4 件(前年 5 件), 受託試験 43 件(前年 49 件)となった。

(3) 公開講座の実施及び計画に関する事項

①今年度は技術教育支援センターにも講座を開講してもらい、全 11 講座(前年 8 講座)を開講した。

また、受講者アンケートを実施し、委員会で来年度に向けた見直し・改善を検討した。

なお、一般市民向け講座については、検討を行ったが開講することができなかった。

②公開講座等の PR や、地域との協定による行事等を実施し、生涯学習機会の PR を行った。

③地域センター長を中心に地域団体等の主催する発表会等へ参加した。

④地域の委員会(苫小牧市福祉のまちづくり推進会議や室蘭開発建設部総合評価審査委員会など)の委員として、教員を参画させた。

(4) その他生涯学習に関する事項

①今年度は 27 回(前年 15 回)の出前授業を実施した。

また、昨年に引き続き、JST北海道の後援で「科学のとびら」を実施した。さらに、地元児童センター主催の「ひらけ！ぼくらの宝島」や日高青少年自然の家主催の「サイエンスフェスティバルINひだか」にて科学実験教室やものづくり教室等の理科教室を実施した。このような出前授業や各種イベントにて理科教室を開催する際には、毎回受講者アンケートを実施し、結果を基に委員会で来年度に向けた見直し・改善を検討している。

(5) 知的財産権に関する事項

①機構本部や、地域団体等が主催する講習会に出席した。「CD」

②産学官連携戦略展開事業の一環として、知的財産セミナーを実施した(2/10)。「CD」

③特許の審査請求を1件、出願を1件行った。出願した特許については、審査請求を検討中である。

(6) 遺伝子組換え生物等の使用等に関する事項

①組み換えDNA実験を適切に実施するための点検等を行った。

3 その他特記事項に係る活動報告

なし

II 次年度への申し送り事項

今年度の計画については、ほぼ計画通り実施し、一定の成果があったと考える。地域共同研究センターの取り組みは、そのほとんどが地元紙を中心に掲載されており、本校が積極的に産学官連携、地域連携に取り組んでいることを地域企業・住民にも理解されていると考えている。また、産学官連携CDとも連携して研究紹介や技術相談を行い、共同研究や商品化に向けた動きも出てきている。

地域の人材育成においては、主に小中学生を対象とした公開講座や出前授業の実施、400人規模の体験型イベントである実験教室を開催しており、いずれについても参加者・来場者からのアンケート結果は好意的であった。地域の人材育成は、本校のPRとともに理科啓発の上でも重要であると考えおり、今後も改善を加えながら実施していきたい。なお、一般市民に向けての生涯学習についても検討を行っており、「地域に開かれた高専」「地域に必要な高専」となるべく、各取り組みについてさらなる充実を図っていきたい。

次年度に向けた主な課題としては下記の通りである。

- ・産学官連携戦略展開事業終了後のリエゾンセンター計画について
- ・大学、道総研等の学術機関との協定に基づく協力や事業への具体化
- ・金融機関との連携事業の充実と知財関連の技術移転の促進
- ・地域センター各室の有効活用に関する検討

専攻科委員会

委員長 浅野 政之

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(2) 教育課程の編成に関する事項

①授業アンケート分析結果には教育課程の編成に関する事項が見当たらず、検討にいたらなかった。学生、社会等の要望、趨勢把握に努め、教育課程について検討を継続する必要がある。

(4) 教育の質の向上及び改善に関する事項

- ①資格の調査と取得支援法について検討できなかった。
- ②学外研修を継続実施し、訪問等により研修先確保に努めた。
- ③地域特産品を活用するエンジニアリングデザイン教育のテーマを決定し、地域企業の訪問をも含む具体的な実施方法について検討を開始した。

(5) 学習支援及び学生支援に関する事項

①個人面談により学習、学生生活のアドバイスをを行った。また、シラバスで自学自習の必要性を意識させることにした。

2 定常的業務に係る活動報告

(1) 専攻科教育課程に関する事項

- ①平成22年度の教育課程を適正に実施した。(通年)
- ②平成23年度の教育課程を確認し、デザイン能力の育成、評価のための複合型演習を導入することにした。(2月)
- ③「環境・生産システム工学」教育プログラムの後期履修者の確認を行った。(4月)
- ④ガイダンスでJABEEプログラムとその取り組みについて説明を実施した。(4月)
- ⑤特別演習後期半年で複合型演習を行うことを決定した。(1月)
- ⑥科目系統図を作成し、履修の手引きに添付することとした。(11月)
- ⑦融合複合促進のため特別演習後期の複合型演習のテーマ、実施方法を決定した。(1月)
- ⑧科学英語表現法、情報リテラシー関連科目について検討に至らなかった。必要性をも含めた検討が必要である。

(2) 授業及び試験に関する事項

- ①平成23年度年間行事予定を作成した。(1月)
- ②平成22年度後期、平成23年度前期の授業時間割を作成した。(前・後期)
- ③平成23年度の科目担当者を調査し、決定した。(1月)
- ④平成23年度シラバスの作成、点検、公開を行った。(3月)
- ⑤平成23年度専攻科入学生用の教育プログラム履修の手引を作成した。(3月)
- ⑥第一回専攻科委員会で「専攻科における授業等について」を議題とし、教員に周知をはかった。(4月)

- ⑦学外研修(道内 14 名、道外 16 名)を実施し、報告会を開催した。(7～10 月)
 - ⑧教育補助業務等有資格者(低学年教育チューター)の確認を行った。(4,10 月)
 - ⑨授業アンケート、学習・教育目標達成度自己評価を実施した。
 - ⑩科目の学習目標・達成目標の自己評価を実施し、自学自習の喚起と指導法の工夫に反映させた。
 - ⑪授業アンケート報告書を作成し、委員会に分析結果を報告した。(1 月)
 - ⑫第一回専攻科委員会で「特別研究の学習内容記録, 実時間集計の学生への指導」を議題とし、特別研究指導教員に依頼した。
 - ⑬専攻科の科目も授業公開の対象とし、2 回実施した。
 - ⑭英語教員、特別研究指導教員と協力し、TOEIC, 英語技能検定等の受験を学生に指導した。
 - ⑮答案等保存資料の点検を実施し、改善を要する件については適正に処理した。(7～8 月)
- (3) 単位および修了の認定に関する事項
- ①専攻科生毎に履修状況を年度始に、単位取得状況を年度末に確認した。(4,3 月)
 - ②専攻科生毎に教育プログラム修了, 専攻科修了要件達成度をプログラム達成度集計表により確認した。(9,3 月)
 - ③海外インターンシップ参加者の単位認定を行った。(2 月)
 - ④AP2、AE2 に対し学位申請説明会を実施した。(9 月)
 - ⑤プログラムの成績評価法の改善について検討できなかった。引続き検討が必要である。(通年)
 - ⑥旭川高専から本校専攻科への入学者について単位を評価した。(1～3 月)
- (4) 特別研究に関する事項
- ①第一回専攻科委員会で「特別研究指導体制」を議題とし、教員に周知した。(4 月)
 - ②複数副指教員体制とし、主および副指導教員の配置を確認した。(4 月)
 - ③特別研究改善のため学会発表を推奨した。研究室間の交流は不十分であり、改善が必要である。(通年)
 - ④1 年生を対象とした特別研究中間報告会を実施した。(2 月)
 - ⑤2 年生を対象とした特別研究審査会を実施した。(2 月)
 - ⑥2 年生全員が函館高専で開催された道内国立高専専攻科研究発表会・交流会に参加した。また、平成 23 年度分について開催日時を決定した。(11～2 月)
 - ⑦地域共同研究センターと協力し専攻科研究発表会を実施した。(2 月)
- (5) 退学(懲戒処分による退学は除く), 休学, 復学および除籍に関する事項
- ①専攻科生の復学、退学について審議・決定した。(9,3 月)
- (6) その他専攻科に関する事項
- ①専攻科生全員に学習、生活についてガイダンスを実施した。(4 月)
 - ②専攻科入学予定者に説明会を実施した。また、旭川高専からの入学予定者には資料を送付した。(2 月)
 - ③専攻主任による専攻科生の面談を実施した。(9,2 月)
 - ④面談、システムにより専攻科生の要望を収集したが、委員会で検討を要するものはなかつ

- た。(随時)
- ⑤専攻科生の車両通学について審議し、交通ルール、マナーについても指導を実施した。
(随時)
 - ⑥第10回専攻科委員会で2年生の進路決定状況を資料で報告した。(随時)
 - ⑦期初に専攻科棟実験室の使用について調査、調整を実施した。(前・後期)
 - ⑧エンジニアリングデザイン教育テーマについて実施した。(7月)

3 その他特記事項に係る活動報告

- ①JABEE 継続審査のため、専攻科関連の改善・検討事項についてWGを設置し、表3、6の整備、デザイン教育の内容・テーマの検討、関連資料の準備等を行い、受審した。

安全衛生委員会

委員長 澤田 知之

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(6)教育環境の整備活用のための措置

- ①平成22年度における安全衛生委員会の活動方針として、委員会を機能的に運営できるように「平成22年度苫小牧工業高等専門学校安全衛生委員会活動計画」として年間の活動計画を策定し、おおむね計画どおり実施した。

2 定常的業務に係る活動報告

(1)職場巡視、視察関係

- ①「巡視体制・巡視箇所等について、再度、検討」については、改修工事に伴い修正等を行った。
- ②「巡視の効果を上げるためのシステム・マニュアル等を検討」は実施までは至らなかった。
- ③「活動方針に基づき、定期巡視、視察等を実施」について、職場巡視を行ったが、活動方針どおりの実施までには至らなかった。
- ④「PCB 廃棄物の保管状況自主点検に協力」については、安全衛生委員会から委員を参加させ毎月1回の自主点検に協力し、その都度委員会で報告を行った。

(2)安全教育関係

- ①「道内国立大学法人が持ち回りで開催している安全管理協議会に本委員会委員を出席させ、得られた情報を教職員に周知」については、平成22年11月に室蘭工業大学が主催した北海道地区安全管理協議会に、安全衛生委員会委員を出席させ、講演のあった内容の中から「『職場でのメンタルヘルス対応』について」を、安全衛生委員会委員長から教職員に向けてサイボウズ掲示板により周知を行った。

3 その他特記事項に係る活動報告

- ①これまでの委員会活動で培った体制をさらに整備・強化するには至らなかった。

II 次年度への申し送り事項

- ①今後、より効果的な職場巡視を行うため、システム・マニュアル等の改善・整備を行うこと並びにより安全な職場環境を目指して、安全衛生の意識を教職員に周知徹底し、学校が一丸となって安全衛生管理に努めるよう、広報活動を積極的に行う必要がある。

危機管理対策室

本部長(校長) 秋山 俊彦

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

IV 業務運営の改善及び効率化を図るための措置

①危機の未然防止と危機への意識徹底を図るための危機管理体制の見直しを進めることができなかった。

2 定常的業務に係る活動報告

(1)管理体制に関する事項

①危機の未然防止と発生に対する措置を含む危機管理体制の見直しを進めることができなかった。

②保健室及び学生相談室と連携し、各感染性疾患等への対応や就学支援を必要とする学生への対応を行った。

③樽前山噴火(地震)時等、緊急時対策について、緊急避難方法(経路)、連絡方法、情報収集方法等について検討を開始した。

(2)教職員への基本的措置に関する事項

①ガバナンスの確立に向けた方策について、年度計画の進捗についてのフォローアップを行った。

②コンプライアンス教育の推進にかかる具体的検討は行わなかった。

③本校「教職員行動規範」の周知について、改めて周知は行わなかった。

④平成22年8月に意見箱を設置し、危機情報の掌握により危機拡大防止に努めるための体制を整えた。

3 その他特記事項に係る活動報告

(1)マニュアル整備に関する事項

①危機管理マニュアル(暫定版)について、未だ検討段階にあり、確定することが出来なかった。

②平成22年7月1日から道内4高専と顧問弁護士の契約を行った。

II 次年度への申し送り事項

①平成23年4月に設置される機構本部のリスク対策室における進捗状況に合わせ、継続して危機管理体制等の見直しを進める必要がある。

②不適切な教員へのガイドライン及び教職員のメンタルヘルス・ガイドラインについて、機構本部の動向に合わせて本校での対応を検討する必要がある。

③危機管理マニュアル(暫定版)の確定に向け検討を継続する必要がある。

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(4)教育の質の向上及び改善のための措置

- ①新教育課程の実施結果、特に、4年の実施結果を慎重に点検した。
- ②機械工学実験指導書の原稿を作成した。
- ③ガス溶接技能講習を実施した。
- ④工業英検の資格取得を奨励した。

III 地域社会との連携ならびに国際交流を推進するための措置

- ①中学校への出前授業の内容を一部改善して募集したが出前授業の要請はなかった。
- ②小学生のための公開講座を計画して1回実行した。また、講座内容も一部改善して好評であった。

2 定常的業務に係る活動報告

(1)教育活動の効率的実施に関する事項

- ①教員の専門性と業務の負荷を考慮して担当科目を決定した。特に、5年の担当科目を慎重に検討した。
- ②科の活動が効率的に行えるように校務分担を決定した。特に、新任教員の負担を慎重に考慮した。

(2)教育内容の充実に関する事項

- ①学科の教育目標に沿ってカリキュラムを点検する。

(3)学生指導に関する事項

- ①定期的に学生の成績状況を把握し、担任を中心に成績不振の学生を指導した。
- ②学生の修学状況について情報交換し、担任を中心に問題がある学生を指導した。
- ③1～3年の学生に、機械工学に関わる技術者としての意識を涵養するためのオリエンテーションを行った。

(4)進路指導に関する事項

- ①1～3年の学生に、職業意識を涵養するためのオリエンテーションを行った。
- ②4年の学生の進路希望を3回調査して、進路指導を行った。
- ③5年の学生に、進路指導委員(5年担任)と卒業研究指導教員が中心となって進路指導を行った。

(5)企業等との連携に関する事項

- ①継続を含めて、企業等との間の共同研究を6件そして受託研究を3件取得した。

(6)学科内設備の充実に関する事項

- ①効果的な教育を行うために、実習工場の横フライス盤2台を設備更新した。
- ②教育レベルを維持するために、燃料電池評価システムを新設した。

3 その他特記事項に係る活動報告

なし

Ⅱ 次年度への申し送り事項

- ①新教育課程の実施結果の点検は5年生の実施結果を重点に点検する必要がある。
- ②中学校への出前授業の内容を再度改善する必要がある。

電気電子工学科

学科長 佐藤 義則

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(4) 教育の質の向上及び改善のための措置

- ①科目系統図を確認するとともに科目内容の更新を図る。
- ②電気主任技術者試験のほか、各種実技資格取得のための啓蒙活動と取得のための環境整備を図る。

III 地域社会との連携ならびに国際交流を推進するための措置

- ①地域共同センターと連携して継続して市内などへの出前授業に参画する。
- ②出前授業の内容を適宜見直し、改善を図る。
- ③小中学生向け公開講座を夏休み中に計画し、実施する。
- ④社会人向け公開講座を計画して実施する。

2 定常的業務に係る計画

- ①新カリキュラム完成年度に向けて科目系統図の確認を行った。平成19年度から実施されている教育課程を適正に運用し、必要に応じて改善を図る。
- ②「ものづくり」を重視した創造実験の導入効果を検討し、高学年実験との連携を推進するため実験テーマの検討を行った。
- ③3, 4年学生実験にもものづくりテーマを導入した。
- ④電気電子技術分野の実践的修得のため、学生実験のテーマ、評価方法、実施形態について定期的に検討し改善を進める。
- ⑤学生のレポート提出状況について定期的に情報交換し、達成度を確認した。
- ⑥卒業研究を通じて専門的研究能力の養成と獲得した知識技術の発表能力の養成を図った。
- ⑦インターンシップ報告会、電気電子セミナー発表会を通じて発表能力の養成を図った。
- ⑧専攻科特別研究、卒業研究において地域企業との共同研究を継続的に行って成果を挙げた。
- ⑨地域社会への貢献と連携および学科PR活動については、地域共同研究センターと連携して実施する。
- ⑩地域企業や近郊小中学生を対象とした公開講座、出前授業に積極的に参加し成果をあげた。
- ⑪中学生のための高専見学会における体験入学や自由見学を通して、学科PR活動を積極的に行った結果、入学志願者の増加など効果を挙げている。
- ⑫地域企業との共同研究、企業からの受託研究は充分とはいえず、さらに推進する必要がある。
- ⑬先端技術分野に関する教養教育を実施するとともに学生の在学中における資格取得を支

援する。

- ⑭在学生に対する各種資格試験取得に向けた支援方策として第三種電気主任技術者試験のための講習会を企画し実施した。昨年に引き続き2名の学生が合格した他、多数の科目合格者の増加するなど、効果を挙げている。
- ⑮企業技術者、研究者等による工学技術分野に関する講演会を4年生に対して実施し、大学における授業内容・研究内容の紹介と先端企業における研究内容の紹介等を行って就職・進学に対するモチベーションの向上を図った。
- ⑯定期的に科内会議を開催し、各種委員会および学生情報の共有化を図った。
- ⑰教員間連絡ネットワーク、科目間連絡ネットワークに参加し学内全体の情報の共有化を図る。
- ⑱就職・進学情報のデータベース化を継続して推進すると共にアクセス方法の改善を図った。
- ⑲学科内の共通資料・会議資料のデータベース化を継続して推進する。
- ⑳定期的に学生の成績状況等について情報交換し、目標達成に必要な対応策を検討して実施する。
- ㉑成績不振学生に対して専門科目の補講を行った。さらに学習支援対策を企画・検討し、実施する必要がある。

3 その他特記事項に係る活動報告

- ①校舎改修計画に向けて、電気電子工学科内の教員室および実験室などの適切な配置を検討する。
- ②競争的資金、外部資金の獲得に向けた対応を検討し推進する必要がある。
- ③学科内の教員構成が変わることを踏まえて教育カリキュラムにおける工学新分野についても検討し、新カリキュラム完成後の科目内容などについて見直しを図る。

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(4) 教育の質の向上及び改善のための措置

① 教育課程の適正な運用と改善

- ・新カリキュラムの進行に合わせた教育内容の整合性・一貫性を継続して検討中である。

② 在学中における資格取得支援

- ・新カリキュラムの「特別学修」で認定する資格を検討した。
- ・「基本情報処理技術者試験」に関する公開講座を実施した。

III 地域社会との連携ならびに国際交流を推進するための措置

① 出前授業等の継続実施と改善

- ・出前授業のテーマ検討し、テーマ数の充実を図った。また、内容も検討し「科学のとびら」で実施した。

② 公開講座の継続実施と改善

- ・「基本情報処理技術者試験」に関する公開講座を実施した。

2 定常業務に係る活動報告

① 受験者数減少対策の実施(通期)

- ・情報ホームページを改善した。

② 小中学校への出前授業の開設(通期)

- ・小中学生を対象にした情報工学の基礎的な授業を検討したが、出前授業は実施しなかった。

③ 実験・実習の支援体制の強化(通期)

- ・実験・実習における副指導教職員により、学生の実験・実習の能力向上を図った。

④ 情報処理技術者試験受験公開講座の開設(夏季休業)

- ・学生の資格取得のための公開講座を夏季休業中に実施した。

⑤ 数学の基礎能力向上のための補習の実施(通期)

- ・基礎的な数学に関する補習を実施し、学生の学力向上と留年者の低減を図った。

⑥ 専門科目学力向上のための補習の実施(通期)

- ・専門科目に関する補習を実施することにより、学生の学力向上と留年者の低減を図った。

⑦ 英語力の強化(通期)

- ・専門科目の試験で、専門英語に関する問題を出題し、英語学習の意欲を高めた。

⑧ 一般教科担当教員との連携強化

- ・一般教科担当教員との連携を検討したが改善までにはつながらなかった。
- ・一般教科担当教員による卒業研究の指導を行った。

⑨ 情報専門科目の e-Learning コンテンツ充実(通期)

・学生が自学自習できる環境を継続して整備した。

⑩企業技術者による講演会開催(通期)。

・企業技術者と情報工学科卒業生を招き、最新技術や業界動向を学ばせ、学生の学習意欲の高揚と職業意識の啓蒙を図った。

⑪学校生活における学生指導(通期)

・副担任を割当て、学生の指導を実施した

・実験室・実習室・研究室の使用マナーや整理整頓を徹底させた。

・校内や講義室での学生の振舞いに対し適切に指導した。

・成績不良やレポート未提出の学生に対し、きめ細かに指導した。

⑫実験・実習・講義設備の充実(通期)

・実験実習用支援サーバを導入し、実験・実習設備の改善を実施した。

3 その他特記事項に係る活動報告

①専門教育内容の検討

・新カリキュラムの進行に合わせた教育内容の整合性・一貫性を継続して検討中である。

②実験・実習・講義設備の更新

・実験実習用支援サーバを導入し、実験・実習の設備改善を実施した。

II 次年度への申し送り事項

①受験者数増加策の検討と実施

・受験者数を増加させるための PR 活動を検討し、実施する。

②教育課程の適正な運用と改善

・新カリキュラムの進行に合わせて、第 1 学年から第 5 学年の教育内容の整合性・一貫性を継続的に検討する。

③一般教科担当教員との連携強化

・一般教科担当教員との連携内容を検討し、実施する。

④出前授業・公開講座の継続実施と改善

・出前授業・公開講座のテーマと内容を検討し、テーマ数と内容の充実を図る。

⑤実験・実習の支援体制の強化

・実験・実習の指導体制を検討し、学生の実験・実習の能力向上を図る。

⑥学力向上のための補習の実施

・数学・専門科目に関する補習の実施を検討し、学生の学力向上と留年者の低減を図る。

⑦実験・実習・講義設備の充実と更新

・実験・実習・講義設備の改善を適宜実施し、設備改善のための予算請求を行う。

物質工学科

学科長 清水 祐一

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(4)教育の質の向上及び改善のための措置

- ①平成19年度より施行された教育課程を適正に運用し、必要に応じて改善を図る。
 - ・関連科目教員間で意見交換を行い、一部科目内容の見直しおよび担当科目の見直しを検討した。
 - ・第1学年「ものづくり基礎」の内容の改善については十分検討できなかった。
 - ・第5学年の選択科目の見直しに関連し、他高専の状況等を調査した。
- ②学生の在学中における資格取得を支援する。
 - ・オリエンテーション、ガイダンス、講義、掲示物などにより、在学中に取得可能な資格(危険物取扱者試験、品質管理検定)についての情報提供を行うとともに技術者として資格取得の重要性を説明した。
 - ・危険物取扱者試験の受験案内および願書の配付、受験用テキストの相談などにより資格取得をバックアップした。

III 地域社会との連携ならびに国際交流を推進するための措置

- ①小中学校への出前授業等を継続して実施し、必要に応じて改善を図る。
 - ・市内の小中学校からの要請を受け入れ、小学校6件、中学校1件の出前授業(実験)を実施した。
 - ・科内の協力体制で実施したが、一部のテーマでは担当教員に偏りが出た。
- ②公開講座等を継続して実施し、必要に応じて改善を図る。
 - ・夏休みに中学生のため化学実験講座を実施し、市内8中学校から16名の参加者があった。
 - ・実験のテーマの見直し・新規テーマの拡充は検討できなかった。
 - ・出前授業、高専見学会等を通して公開講座のPRに努めた。
 - ・本校が実施した実験イベント「科学のとびら」(11/23, 12/12)に積極的に協力した。

2 定常的業務に係る活動報告

(1)科目担当教員の連携および専門科目教育の充実に関する事項

- ・毎週科内会議を開催し、各委員会および物質工学科の学生動向等の情報の共有化を図るとともに、検討事項について意見交換、審議した。
- ・校舎改修に向けて学生実験室の在り方、実験テーマおよび実験担当者の見直し等の検討を行った。
- ・中間・定期試験後に成績状況等について情報交換し、成績不振者等の対応策を検討した。
- ・第2,3学年の学生実験に低学年教育チューターを活用し指導の充実を図った。

・全体的なカリキュラムの点検は十分進まなかった。

(2) 科学・工学分野における教養の涵養および資格取得等の支援に関する事項

- ・企業技術者活用プログラムを利用して、学生を対象とした講演会および授業を実施した。
- ・化学講演会(日本化学会北海道支部主催)を本校で実施し、学生を聴講させた。
- ・危険物取扱者試験および品質管理検定の資格取得支援を行った。両方合計で 10 数名が合格した。

(3) プレゼンテーション能力の育成に関する事項

- ・授業、学生実験等に発表会を取り入れ、プレゼンテーション能力の向上を図った。
- ・道外工場見学の事前調査発表会および事後報告会を実施した。
- ・学生の学会発表を支援・指導した。

(4) 学生指導に関する事項

- ・学科として担任のHR指導および運営に協力した。
- ・全教員共通の認識のもと、学校生活における心得の遵守、マナー向上等の指導にあたった。
- ・中間・定期試験の監督の 2 人体制を維持した。

(5) 地域社会への貢献、地域社会との連携、物質工学科のPRに関する事項

- ・夏季休業中に中学生対象の公開講座を実施した。
- ・市内の小中学校からに出前授業依頼に積極的に対応した(小学校 6 件, 中学校 1 件)。
- ・地域共同研究センターが実施した実験イベント(科学のとびら)に協力して実験を実施した。
- ・地元企業との共同研究を 2 件実施した。
- ・高専見学会における体験入学および自由見学を通して物質工学科をPRし、受験生の増加に努めた。

(6) 進路指導に関する事項

- ・就職・編入学試験の受験にあたって学生に模擬面接を行い必要な指導を実施した。
- ・大学による編入学説明会、企業による会社説明会を各 1 回実施した。
- ・第3学年オリエンテーションにて物質工学科の就職・進学の実情についてガイダンスを行った。また、卒業生 2 人を講師として招き、進路選択に関する話題を提供してもらった。
- ・第2および第4学年に対しても最近の就職・進学の実情についてガイダンスを行い、進路指導の強化に努めた。

(7) 情報のデータベース化に関する事項

- ・学科専用のサーバーを利用して、各種情報のデータベース化の促進および活用を図った。
- ・中間・定期試験および小テストなどのデータベース化の是非については検討できなかった。
- ・成績評価および学生指導関係に関する科内の申し合わせ事項の整理を進めた。

3 その他特記事項に係る活動報告

- ①校舎改修計画に向けた、物質工学科内の研究室・実験室等の配置・利用方法を再検討し、計画案を作成した。

Ⅱ 次年度への申し送り事項

- ①校舎改修に際して授業，実験および研究等ができるだけスムーズ実施できるよう十分な準備を検討する。
- ②就職状況が厳しくなりつつある中で就職指導の改善，強化を検討する。
- ③中学生にとって魅力的な高専見学会や公開講座の在り方(内容，実施時期など)，卒業研究の学外発表会の開催などを検討し，物質工学科のPRに努め受験者の確保を図る必要がある。
- ④引き続き学生とのコミュニケーションを密にして，学習指導や進路指導等を強化するとともに，学生の人格形成を促していく必要がある。
- ⑤カリキュラムの点検を実施する。
- ⑥教材等のデータベース化を進め，活用を検討する。

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(4) 教育の質の向上及び改善のための措置

- ①平成19年度より施行された教育課程を適正に運用した。必要に応じて個々の科目の内容を検討し、改善を図った。
- ②学生の在学中における資格取得を支援するため、資格に関する情報等を掲示板等により学生に提供した。

III 地域社会との連携ならびに国際交流を推進するための措置

- ①小中学校への出前授業等を継続して計画したが、出前授業の要望はなかった。
- ②市民のための見学会を計画し7月27日に実施した。また、科学のとびら、日高科学実験教室にも参加し、その内容についても改善を行った。

2 定常的業務に係る活動報告

- ①ホームページの内容を検討し、見直しを行ない、大幅な更新を行った。また、随時内容を更新した。
- ②学科紹介パンフレット等の内容を検討し、必要に応じて更新・改善した。
- ③1,3年生オリエンテーション資料の内容を検討し、必要に応じて更新・改善した。
- ④非常勤講師との懇談会を12月3日に1回、学級経営ネットワークを7月5日、11月1日、12月20日、3月3日、3月11日の5回、学科反省会を7月23日の1回実施し、教育改善に努めた。
- ⑤前期、FD部会の企画による授業参観・授業公開を実施し、教育改善に努めた。後期から、実施期間等を特に決めない学科独自の授業参観を実施し、教育改善に努めた。
- ⑥学外実習、卒業研究、学外研修、特別研究等の発表会を行い、プレゼンテーションの能力を高めた。
- ⑦技術者試験問題、就職・進学試験問題等を収集し、整理した。
- ⑧就職・進学の個別指導を行なった。
- ⑨高専見学会の内容を検討し、必要に応じて改善を行った。
- ⑩高専祭における学科展に対して指導等を行なった。
- ⑪1月28日に長岡技科大の岩崎英治准教授による講演を4年生に対して実施した。豊橋技科大については、都合があわず実施できなかった。
- ⑫6/30に北海道土木技術会コンクリート研究委員会の主催で4年生を対象にPCセミナー行われた。9/2に学外の講師による4年生の測量学実習、6/18に3年オリエンテーションにおいて卒業生2名による講演を依頼して実施した。6/30に室蘭工業大学において、東京都大学総長の中村英夫氏の特別講演会が行われ、専攻科生7名が室工大生に混ざって講演を拝聴した。

⑬9月15日に4年生の工業火薬見学, 9月2,3日に2年総合研修, 11月3~5日に4年道外工場見学等を継続して実施した。また, 9月3日に道路建設(株)による4年生を対象とした施設見学, 菱中建設(株)による4年生を対象と施設見学が行われた。

3 その他特記事項に係る活動報告

- ①平成22年度土木学会北海道支部研究発表会を当番校として2/5,6に実施し, 本校からも5編が発表された。また, 地盤工学会北海道支部第51回年次技術報告会も苫小牧において, 2/4,5に開催され, 本校から1編が発表された。
- ②栗山教員が8月7日(土)に市科学センターにおいてYAC(日本宇宙少年団)例会としてものづくりのイベントを行った。
- ③栗山・渡辺教員が2月27日(日)にイオンショッピングセンター苫小牧会場においてYAC(日本宇宙少年団)主催の2011コズミックカレッジ苫小牧のイベントに参加し, 科学実験を行った。

II 次年度への申し送り事項

- ①継続的に教育課程表の検討を行い, 必要に応じて科目の内容等の改善を図る。
- ②小中学校への出前授業等の内容について, 継続的に検討し改善を図る。
- ③公開講座等の内容について, 継続的に検討し改善を図る。

文系・理系総合学科

文系総合学科長 蓼 沼 正 美

理系総合学科長 中 野 渉

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(4) 教育の質の向上及び改善のための措置

- ① 学科会議、授業参観、学級経営連絡ネットワーク、授業改善計画に関する学科反省会、総合学科カリキュラム検討委員会等を通して、授業内容の向上を働きかけた。
- ② 英語、数学、物理の教科担当において TOEIC 及び学習到達度試験の結果の分析を行い、教務委員会等に報告した。
- ③ 総合学科カリキュラム検討委員会において、新教育課程とくに一般選択科目の適正な運用について検討し、必要な点は改善を加えた。また、一般選択科目の履修学生の振り分けについても、高校からの次年度編入学生への希望調査を含めてほぼ問題なく実施できた。
- ④ 「学生便覧」、「シラバス」への規程の掲載によって、一般科目に関する知識・技能審査について全学生への周知が図られた。また、11月9日に実施した第3学年への「一般選択科目に関する説明会」でも単位認定について説明した。

III 地域社会との連携ならびに国際交流を推進するための措置

- ① 総合学科教員による「出前授業」、「実験教室」、「公開講座」を実施した。

2 定常的業務に係る活動報告

- ① 学級経営連絡ネットワーク、学科会議などを通して、学生の動向・学力実態の把握に努めたが、各学級担任が1人で問題を抱える面は少なくない。
- ② キャリア教育等の計画的実施について、例年と同様の取り組みを行ったが、関係委員会との連携は十分ではなかった。
- ③ 自学自習の習慣づけや補習の実施などについて学級経営連絡ネットワーク等で検討したが、十分ではなかった。
- ④ 「授業改善計画に関する学科反省会」で授業アンケート、授業公開、授業参観等の結果に基づいて、授業改善の方法について検討し、教務・専攻科両委員会に報告した。

3 その他特記事項に係る活動報告

- ① 科学研究費の採択4件： 新規採択3件(教員2件、職員・教員1件)、継続1件
- ② 「国際交流」に関して、企画広報委員会と協力して、主に英語担当教員が学生・教員の海外研修を支援した。

II 次年度への申し送り事項

- ① 今後は、各学年の学級担任代表を中心にして学年の担任団が問題の早期発見・組織的対応を図ることが必要である。
- ② キャリアデザイン教育のあり方について、学内での検討を急ぐ必要がある。
- ③ 自学自習の習慣づけや補習の実施などについて組織的な取り組みが必要である。

事 務 部

事務部長 板 橋 博

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(6) 教育環境の整備活用のための措置

- ①施設マネジメント体制を確立し、施設計画・整備・管理を一元的に行える方策について第1期校舎改修工事で得られた課題等を施設防災部会で整理検討した。
- ②既存施設の使用実態を把握し、有効活用の促進について、当初計画通り学生会室を鵬翔会館に移転し、元スペースの有効活用について検討を行った。
- ③高専機構等の実施する安全管理に関する講習会に技術職員を参加させた。

II 教職員の研究活動を活性化させるための措置

- ①事務組織の機能・編成について検証し、平成23年度当初に向けて事務部内における事務分掌の見直しについて検討を行った。

IV 業務運営の改善及び効率化を図るための措置

- ①業務の効率化及び負担軽減の観点から、事務管理運営全般の見直しを進め、可能な限り実施できるよう努めた。
- ②職員へのコンプライアンス教育の実施に向けた検討は行わなかった。
- ③職員の能力向上のための方策立案に向けた検討については着手できなかった。
- ④事務組織の活性化を図るため、引き続き国立大学法人等との人事交流を行った。
- ⑤学生の満足度向上を図るという視点に立った重点的・効率的・弾力的な運用について、十分な検討はされなかった。
- ⑥管理的経費の抑制と節減に努め、可能なものから実施した。

2 定常的業務に係る活動報告

(1) 事務組織に関する事項

- ①平成21年4月に設置した技術教育支援センターについて、嘱託職員や非常勤職員を含めた今後の人事計画等の検討を行った。
- ②機構本部の業務改善委員会における進捗状況に合わせ、業務執行体制等の整備を検討した。

(2) 職員に関する事項

- ①職員の能力・資質向上のため、機構本部による研修のほか、道内国立大学法人等が実施する研修及び人事院が実施する階層別研修及び担当業務に係る研修に、適任者を積極的に参加させた。
- ②職員の意識の向上と活性化を図るため、大学法人等との人事交流を積極的に推進した。

(3) 外部資金等に関する事項

- ①学外講師による科研費採択に向けた講習会を実施した。事務担当者においても申請書の基礎的項目以外の記入内容等についても確認しアドバイスをを行った。
- ②事務部においては、規則、マニュアル等を活用し、普段から事故防止に心掛け、機構本部

からの通知による注意事項等については周知し、遵守させた。

(4) 管理的経費に関する事項

- ① 契約事務において、役務契約では、複数年契約を行ったほか、委託期間等を検討する等の見直しを行った。また、コピー用紙は、道内大学高専と共同調達を行ったことにより経費の削減に努めた。

(5) 施設・設備等に関する事項

- ① 物質工学科棟、環境都市工学科棟の改修に係る概算要求を行い、平成22年度施設整備費補助金追加配分事業として物質工学科棟の改修が予算化された。
- ② 学生寮(第3寮)の改修、老朽化した電話交換機の更新を年次計画通り実施した。
- ③ 焼却処分していた機密文書を溶解処理によるリサイクル処分に変更し資源の再利用に努めた。

(6) 安全管理に関する事項

- ① 毒劇物等の化学薬品の管理(廃棄及び保管)を徹底した。また、毎月 PCB 廃棄物の自主点検を安全衛生委員会の主導の下、確実に実施した。

点検評価委員会

委員長 稲川 清

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

①運営委員会等からの特別な指示は無かった。

2 定常的業務に係る活動報告

(1)点検評価についての調査及び分析に関する事項

①以下のシンポジウム, 説明会等に委員長, 副委員長を派遣した。

- ・3認証評価機関・日本学術会議共催「第1回シンポジウム」参加報告(4月24日)
- ・高等専門学校機関別認証評価に関する説明会(6月1日)
- ・高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会(12月22日)

(2)点検評価についての企画及び立案に関する事項

①機関別認証評価基準に対する対応・分担業務について検討を行い, 校長に答申した。また, 「機関別認証評価の自己点検及び自己評価書作成の実施概要(案)」「学校教育法第109条の1に基づく自己点検及び評価の実施概要(案)」も作成し, 併せて答申した。

(3)その他点検評価に関する事項

- ①答案等保存資料の点検を補佐した(委員長, 副委員長)。
- ②教育の質の改善に関する点検について運営委員会からの特別な指示は無かった。

3 その他特記事項に係る活動報告

特になし。

技術教育支援センター

技術教育支援センター長 澤田 知之

I 平成22年度の活動報告

1 中期目標・中期計画に係る活動報告

I 優秀な入学志願者を受入れ、所要の教育を施すための措置

(6)教育環境の整備活用のための措置

①平成22年度北海道地区国立学校等安全管理協議会(室蘭工業大学)に1名を参加させた。

IV 業務運営の改善及び効率化を図るための措置

①専門分野以外であっても教育支援を行なえることを目標に、学内において定期的に技術研修会を実施した。

2 定常的業務に係る活動報告

(1)教育・研究に対する技術支援に関する事項

①前期および後期技術支援依頼書に基づき、年間支援計画を作成した。

②年間支援計画に基づき、学生実験・実習、専攻科特別実験、卒業研究および専攻科特別研究に対する技術支援を行った。

③年間支援計画に基づき、実験・実習等に関わる教材の作成、試料等の準備を行った。

④年間支援計画に基づき、教員の教育・研究活動への技術支援を行った。

(2)設備の管理運営等における技術支援に関する事項

①前期および後期技術支援依頼書に基づき、年間支援計画を作成した。

②年間支援計画に基づき、実験室等の共通利用機器等の保守・管理等における技術支援を行った。

③年間支援計画に基づき、情報処理施設運営等における技術支援を行った。

④年間支援計画に基づき、実習工場施設・設備の管理運営等における技術支援を行った。

⑤年間支援計画に基づき、校内LANなどインフラに対する技術支援を行った。

(3)センター運営の充実・活性化させるための取組に関する事項

①定期的にグループ長連絡会(常勤職員全員参加)を開き、業務運営の軌道化に努めた。また議事録や各種委員会等資料をDocuShareに登録、および印刷物にて保管した。

②技術支援体制等の検証のため定期的にグループ長連絡会(常勤職員全員参加)を開き、必要に応じて検証を行った。

③技術支援を維持・向上させるための方策を検討するため定期的にグループ長連絡会(常勤職員全員参加)を開き、必要に応じて検討を行った。

(4)学校行事、学生行事、学生の課外活動への技術支援に関する事項

①入学式、学力検査の支援の外、支援依頼に基づきロボコン、高専祭等の支援を行なった。

3 その他特記事項に係る活動報告

①技術教育支援センター報告集第3報を3月に発行した。

②シーズ発表会に技術職員5名が参加した。

③能力(技術)向上のための講習会・研修会を実施した。また、長岡技大(2名)と北大(2名)で開

催された技術職員研修会や各種研究発表会に参加し、報告書を提出した。

- ④年間支援計画に含まれていない技術支援依頼は11件であった。技術相談は3件であった。
- ⑤支援センターとして「科学のとびら」および「サイエンスフェスティバル」へ参加した。また、公開講座1件(2テーマ)および出前授業10件を実施した。

II 次年度への申し送り事項

- ①専門分野以外であっても教育支援を行なえる体制と環境を整えていく必要がある。
- ②能力(技術)向上のための研修等の実施に向けた検討を進めるとともに、他機関主催の研修等に積極的に参加する必要がある。
- ③公開講座や出前授業等を継続して実施するとともに、新たな実施テーマを検討する。

目 次

校長・スタッフ会議	1
運営委員会	2
教務委員会	5
学生委員会	8
寮務委員会	10
入学試験委員会	12
進路指導委員会	14
企画広報委員会	16
学術情報センター委員会	18
地域共同研究センター委員会	20
専攻科委員会	24
安全衛生委員会	27
危機管理対策室	28
機械工学科	29
電気電子工学科	31
情報工学科	33
物質工学科	35
環境都市工学科	38
文系・理系総合学科	40
事務部	41
点検評価委員会	43
技術教育支援センター	44